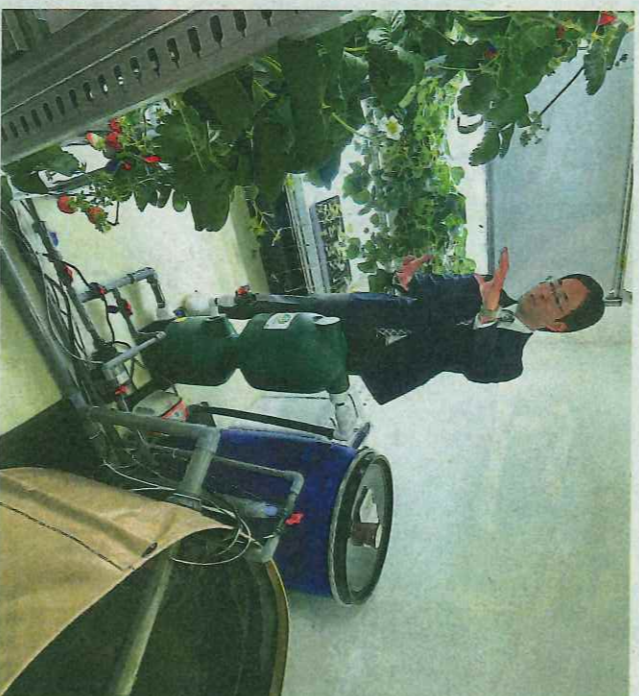


魚の糞含む水 ▶ 野菜肥料に ▶ 浄化され再利用

循環型農業 水耕 × 養殖

野菜や果物の水耕栽培と魚の養殖を同時に「アクアポニクス」が県内でも注目を集めている。魚の糞を含んだ水が野菜の肥料となり、野菜がその水を浄化して魚の飼育に再利用する循環型システム。環境にも優しいと期待が高まっている。

(川崎大輝、中山知香)

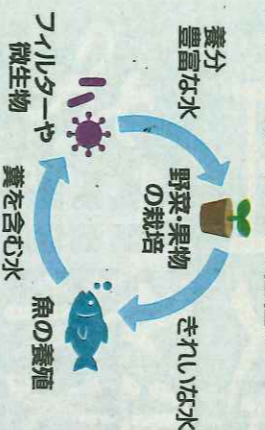


アクアポニクスで育てられたイチゴ。右の水槽でニシキゴイが養殖されている(30日、横浜市港北区)



農園の床下で飼育されている魚の糞を確かめる浜田社長(藤沢市で)

アクアポニクスの仕組み



「アクアポニクス」は、水産養殖を意味するアクア(ルチャイ(Aquaculture))と、水耕栽培を意味するハイドロポニクス(Hydroponics)からなる造語。アメリカ発祥とされ、世界中に広がりつつある。魚の糞を含む水は微生物の分解により豊富な養分を含み、野菜の肥料代わりになる。野菜が浄化した水は水槽に戻

横浜の企業 イチゴ生産実証実験

「アクアポニクス」は、水産養殖を意味するアクア(ルチャイ(Aquaculture))と、水耕栽培を意味するハイドロポニクス(Hydroponics)からなる造語。アメリカ発祥とされ、世界中に広がりつつある。魚の糞を含む水は微生物の分解により豊富な養分を含み、野菜の肥料代わりになる。野菜が浄化した水は水槽に戻

「アクアポニクス」は、水産養殖を意味するアクア(ルチャイ(Aquaculture))と、水耕栽培を意味するハイドロポニクス(Hydroponics)からなる造語。アメリカ発祥とされ、世界中に広がりつつある。魚の糞を含む水は微生物の分解により豊富な養分を含み、野菜の肥料代わりになる。野菜が浄化した水は水槽に戻

「アクアポニクス」は、水産養殖を意味するアクア(ルチャイ(Aquaculture))と、水耕栽培を意味するハイドロポニクス(Hydroponics)からなる造語。アメリカ発祥とされ、世界中に広がりつつある。魚の糞を含む水は微生物の分解により豊富な養分を含み、野菜の肥料代わりになる。野菜が浄化した水は水槽に戻